

案件名	ITOKI スピーナ カーボン・オフセットプロジェクト	
申請者	株式会社イトーキ	
案件の概要	製品ライフサイクル全体の CO2 排出量をオフセットし、カーボン・オフセット付ファニチャとして、全国の販売網を通じてオフィスワーカーに広くPRする。(CER1700t)	
	No.	商品名
	1-32	スピーナチェア
	※製品記号に基づくバリエーションは B-1⑥「算定排出量」の※印を参照のこと	
認証区分/タイミング	I-1 商品使用・サービス利用オフセット/オフセット予定認証	
カーボン・オフセットの主体(帰属先)	申請者の提供する商品・サービス等の購入者	
算定範囲	最小販売単位(本体、取扱説明書および梱包材1セット)の、ライフサイクル全体(原材料調達-生産-流通-廃棄・リサイクル)を対象とする。 なお、仕様ごとの算定を行い、スピーナチェアの全仕様を対象とする。ただし、特注品及びオプションパーツは除く。また、ラベルの製造にかかわる GHG 排出量等、全体排出量の5%以内(微量)となる排出源は算定対象外とした。	
オフセット量 / 算定排出量	1,141t-CO2/1,141t-CO2	
クレジット種別	京都クレジット(CER)	
プロジェクト名	インド・カルナタカ州 NSL27.65MW 風力発電プロジェクト	
無効化日	2012年7月13日、2012年12月18日	
情報公開	情報提供事項	記述欄
カーボン・オフセットに関する説明	申請者名(認証取得者名)	株式会社イトーキ
	カーボン・オフセットの主体の特定	申請者の提供する商品・サービス等の購入者
	認証対象活動	I-1 商品使用・サービス利用オフセット
	認証有効期間	2011年12月1日~2012年11月30日
	カーボン・オフセットの仕組みの説明	カーボン・オフセットとは、自分の排出量を「見える化」(算定)し、削減努力をしても、どうしても削減できない温室効果ガス排出量を違う場所での排出削減・吸収量でオフセット(相殺)する仕組みである。
カーボン・オフセットに関する説明	地球温暖化対策の喫緊性の説明	近年人為的な温室効果ガス(GHG)排出量の増加による地球温暖化問題が顕在化しており、それが原因と見られる気候変動が世界の各地で報告されている。気温の上昇が進むに従い、より大きな気候変動が起こり、地球上に生きるものにとって、多大な影響があると考えられている。仮に今後、GHG排出量を削減に転じたとしても、既に大気中に放出されたGHGの影響で、気温上昇が止まるまでには、しばらく時間がかかるという研究結果もある。そのため、気温上昇をできるだけ最小限に留めるためには、一刻も早い対策が求められている。

情報公開	情報提供事項	記述欄
算定対象範囲	認証対象活動における温室効果ガス排出源	ライフサイクル全体(「原材料輸送」「材料製造」「工場間輸送」「製品製造」「流通」「廃棄・リサイクル」) CO ₂ 、N ₂ O、CH ₄
	算定対象範囲	<p>最小販売単位(本体、取扱説明書および梱包材1セット)の、ライフサイクル全体(原材料調達-生産-流通-廃棄・リサイクル)を対象とする。</p> <p>なお、仕様ごとの算定を行い、スピーナチェアの全仕様を対象とする。ただし、特注品及びオプションパーツは除く。また、ラベルの製造にかかわる GHG 排出量等、全体排出量の 5% 以内(微量)となる排出源は算定対象外とした。</p> <p>※オフセット対象期間：2011年12月1日から2012年11月30日までの製造分 (カットオフ対象)</p> <p>カットオフ対象条件は、データの収集が困難で、かつ全体の GHG 排出量の 5% 以内であるものとした。下記の部品は、いずれも重量が小さく、製造・加工に伴う GHG 排出量が明らかに上述の条件を満たすため、カットオフ対象とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄鋼部品製造時の加工ロス分の製造及び廃棄に伴う GHG 排出量 ・ラベル、エンブレムの製造、廃棄に係る GHG 排出量 ・ファスナーの加工に係る GHG 排出量 ・梱包材、取扱説明書への印字用インクの製造及び印刷に係る GHG 排出量
算定方法、算定排出量	算定排出量、及びオフセット量もしくはオフセット比率	<p>算定排出量：1,141t-CO₂</p> <p>オフセット量：1,141t-CO₂</p> <p>オフセット比率：100%</p>
	算定方法(算定式、及び算定方法の根拠とした文書)	<p>【算定式】</p> <p>本製品製造時の電力使用量×電力のGHG排出原単位 本製品製造時のLPG使用量×電力のGHG排出原単位 本製品製造時の水使用量×電力のGHG排出原単位 各原材料の使用重量×各原材料製造のGHG排出原単位 輸送重量×輸送距離×GHG排出原単位(原材料輸送、工場間輸送、製品輸送、廃棄時輸送共通) 本製品の廃棄時重量×廃棄のGHG排出原単位</p> <p>【算定方法の根拠とした文書】</p> <p>電力：経済産業省資源エネルギー庁電力・ガス事業部，“電力需給の概要”</p> <p>LPG：財団法人石油産業活性化センター：“石油製品油種別 LCI 作成と石油製品環境影響評価調査報告書”(2000)</p> <p>各樹脂材料：社団法人プラスチック処理促進協会：“石油化学製品の LCI データ調査報告書<更新版>”(2009.3)</p>
削減努力の実施	認証対象活動等に係る排出削減の取組	<p>製造・提供における省エネ活動として、チェアを製造するイトーキ滋賀工場は ISO14000 を取得しており、継続的な省エネ活動を推進している。エネルギー監視システムを導入し、効率的な改善を行っている。</p> <p>また、省資源化にも取り組んでおり、具体的には、座クッションのウレタン使用量を削減できる設計としている。リサイクルに関しては、廃製品、廃梱包材において実施している。</p>
情報公開	情報提供事項	記述欄

削減努力の実施	申請者自身の排出削減の取組	<p>Ud&Eco(ユーデコ)スタイルという、ユニバーサルデザインと、エコロジーを重視したものづくりコンセプトを掲げており、地球環境にやさしい家具の「製造販売という点については、他社に比してきわめて重く受け止めており、環境負荷低減のために、次のような施策に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■3R 施策, ISO14000s への取組みのほか、太陽光発電・粉体塗装による、生産工程での環境負荷低減 ■間伐材の地産地消ソリューション(Econifa)の発売 ■製品のカーボンフットプリントを算定し、イベント等で発表する。 ■CO₂ゼロエミッション引越ソリューションの発売 ■輸配送委託先に対し、各都道府県トラック協会の行うエコドライブ研修の受講を推奨 ■環境に配慮したオフィスの提案、及び自社オフィスでの実践 ■高効率照明の販売、及び自社オフィスへの導入 ■電力使用量見える化システムを一部の自社オフィスに導入し、GHG排出量の抑制に繋がる行動を喚起
削減努力の実施	オフセット主体に対する削減努力の促進に関する情報	<ul style="list-style-type: none"> ①エコマークやグリーン購入法対象商品を増やすなど、できる限り環境負荷の少ない商品を推進している。 ② 2011年11月オープンウェブサイトのwebサイトで情報提供
オフセットに用いるクレジットの調達及び排出量の埋め合わせ	クレジットの種類	CER
	認証制度名	国連 クリーン開発メカニズム(CDM)
	プロジェクト名(プロジェクト実施国・実施地域を含む)	インド・カルナタカ州NSL27.65MW風力発電プロジェクト
	プロジェクトタイプ	風力発電
	クレジットの調達状況・調達期限・通知方法	2009年3月1日 / 2009年5月31日 / 2010年11月10日にクレジットを調達済み。 不足分が発生した場合には適宜調達を実施の上、ホームページ上にてその旨を掲示する。
	クレジットの無効化状況・無効化方法	国別登録簿の償却口座へ移転(国内排出分) 国別登録簿の取消口座へ移転(国外排出分)
販売価格・その他支払いに関する事項	商品・サービス当たりの販売価格	別途、情報公開を行う。
	消費者の価格負担(料金への上乗せ)の有無	BtoCにおいては今回のオフセット導入による価格改定は行わないため、消費者の価格負担は無い。 BtoB においては顧客の価格負担はない。

情報公開	情報提供事項	記述欄
販売価格・その他支払いに関する事項	その他支払いに関する事項(申し込みの有効期限、不良品のキャンセル対応、販売数量、引渡し時期、送料、支払い方法、返品期限、返品送料等)	BtoB の場合、法人のお客様ごと取引条件を決定する。 BtoC の場合、個々の小売店において、定める取引条件に依る。
販売事業者情報	販売事業者名	株式会社イトーキ
	運営統括責任者名	鈴木 恵里子
	連絡先(所在地、電話番号、e-mail)	東京都中央区新富2-15-5 RBM築地ビル101 03-5566-7289 suzuki3xq5@itoki.jp
	ウェブサイトリンク先	http://www.soho-st.com/